

津久井中央ロータリークラブ



事務所・例会場

相模原市緑区中野 1029 津久井商工会館 2F

TEL 042-780-0201 FAX 042-850-4830

例会日 毎週木曜日 時間 12:30~13:30

会長 前沢弘之 幹事 井上 旭



第 1177 回 平成 31 年 3 月 28 日(木曜日)《28》

司会 杉本信一 SAA 会長 前沢弘之 会長 斉唱 奉仕の理想

会長挨拶 前沢弘之会長

大谷パストガバナー、本日はようこそお越しくださいました。後ほど、卓話を頂きます。よろしく願いいたします。南クラブの中村さん、いつもありがとうございます。

前回、奉仕について、私がかつて中学生向けにボランティアという概念を材料に行なった話を、くだらないジョークを交えてお話しし、大人向けの、そしてロータリアンにとっての奉仕については次回としました。皆さん、もうお忘れだと思いますので、簡単にまとめておきますと、ボランティアというのは、自発性を本質とする。つまり、自分のことばかりに夢中になるのではなく、自発的に敢えて「世の中と関係を持つ」「人とツナガリを持つ」ことがボランティアをすることなのですが、そうすることで、じゃあどこまでやるのかと悩んだり、次々と面倒なことを押し付けられたりといった「ボランティアのジレンマ」とでもいべき事態に直面してしまう。しかし、そもそもボランティアをすることとは、どうしてもそういうことであって、それでも敢えてそういう悩ましい地点に身を置くことで、思いがけない喜びや楽しみ、充実感といったものを味わうことができる。そんな話をしたわけです。これは、大人の奉仕においても、同じですね。我々の「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という標語も、(原義からはだいぶ外れると思いますが)そういう意味に捉えることができるのではない

かと考えています。(もっとも、近年、学校でボランティア活動をカリキュラムに組んでボランティアがいわば「義務化」されたりしている。それが果たして本来のボランティアか?といった議論がなされているようですけど…。なお、予め申し上げておくと、この「最もよく…」という何のことはないような言葉が、奉仕の本質を突いた非常に優れたテーゼだということを最終的に言いたいのですが、例によってそこへ辿り着くまでが容易でない…。)

さて、問題の大人の奉仕です。PGを前に、こんな大テーマで的外れなことを言うてしまうことを恐れつつ、手始めに我々の奉仕と中学生のボランティア活動の違いを考えてみましょう。

例えば、我々には、森田年度の桜の植樹事業のように、子どもたちや障害者の方々、ボランティアとして参加する機会そのもの、奉仕の機会そのものを提供することができます。ポリオ募金もそうですね。街頭やイベントでの募金活動は、人々に寄付という形での奉仕の機会を提供しているわけですが(金額だけを求めるなら、誰か一人又は数人のお金持ちのところへ行った方が、はるかに効率的であるにもかかわらず)。どこかのボランティア活動に参加するというのも、勿論奉仕なのですが、どんな奉仕活動をすべきかを考え、その活動の場を設定し提供するのは、我々大人の務めです。そして、我々ロータリアンに最も期待されているのは、まさにそこではないかと思います。(しばしば「(組織的・財源的に)ロータリーさんなら…」と言われるすよね。あれで

問題は、どんな奉仕活動をするか。言い換えれば、

【出席報告者 田畑和久委員長】

現在会員数	出席対象数	本会出席数	本会欠席数	本会出席率	前回修正出席率	前々回修正出席率
16	16	16	0	100%	73.33%	100%
本日欠席者						

良い奉仕とはどんなものかです。

これについては、多くの先人たちの長い間の積み重ねがありますね。例えば、皆さん、お彼岸でお墓参りに行かれたと思いますが、仏教には「布施」や「喜捨」という徳目があります。財産のある人は喜捨をする。財産がなくても、「無財の七施」…これは、温かい笑顔を施す（顔施）、優しい眼差しを施す（眼施）、思いやりのある言葉を施す（言辞施）、感謝の心で人と接する（心施）、身体を使って人のために汗を流す（身施）、座席や場所を譲る（床座施）、宿を提供する（房舎施）の7つの布施です。財産がなくても、体が動かなくても、できる施しがあるということが説かれています。

もう一つ例を挙げると、これは非常に新しいものですが、前回の例会で話題になった、今流行りのSDGs（Sustainable Development Goals）ないしグローバルゴールズ。これは、2016年から始まった国連開発計画（UNDP）の「持続可能な開発目標」というやつで、2030年までに達成すべき17の大目標と169の具体目標を掲げています。いくつか挙げますと、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」「気候変動に具体的な対策を」「平和と公正を全ての人に」…などなど（どこかで聞いた感じがすね）。但し、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」とか「働きがいも経済成長も」「産業と技術革新の基盤を作ろう」といった目標も掲げられています。そういうことに全世界で取り組んで、「持続可能な開発」を可能にしようというわけです。（これ、開発や経済成長を目的とする限り、必ず自然や資源を収奪する。それが南北問題や、資源、環境問題、貧困や飢餓を生む。その矛盾をどうやって克服するかが問題である筈なのに、いかにも総花的だ。果たしてこれらの目標が両立どころか17立もするのかという皮肉な見方もあろうと思います。しかし、開発・成長一辺倒では世界はちっとも良くなる。2030年という期限を切って、飢餓や貧困や衛生、環境といった具体的目標を掲げるところまで世界は一致しつつあると、好意的に捉えることもできるだろうと思います。実際、世界の富の総量は、とっくに全世界を覆って余りあるところまで来ているわけですし、私たちが肉を食べるのを少し我慢すれば、世界から飢餓が激減します…。）

そして、言わずと知れたロータリーの6つの重点分野です。①平和と紛争の予防、②疾病予防と治療、③水と衛生、④母子の健康、⑤基本的教育と識字率の向上、⑥経済と地域社会の発展です。これらは、全世界120万人の会員を擁するロータリーが110数年かけて経験を積み重ね考え抜いてきた、その、現時点の結論ですから、相当な重みを持つ筈のものです。

どんな奉仕をすべきか、これは難しい問題です。一般論としては、良い奉仕というのは、社会の問題

状況に対して、その解決や改善、あるいは補填や補完（逆にポリオのようなものなら除去、滅殺）になるようなものということができるでしょう。しかし、奉仕をする主体によって、具体的な中身は全く異なってくるはず。先ほど申し上げた、仏教の布施は、万人が万人に対して出来ること（一種の道徳）でしょうし、SDGsは、ある種の政治目標です。そして、ロータリーならではの奉仕を考えると、やはり6つの重点分野が中心になるのだらうと思います。もう一つ加えれば、ポリオプラスのように（これはクラブ単位ではあまりに大きすぎますが）、周囲の人々ができるだけ参加できるような機会を提供することだらうと思います。（私の会長年度もあと3か月。「今さら」感をひしひしと感じつつ…）

とはいえ、具体的に何をするか、そんなにホイホイ浮かんで来ませんね。だから、まず状況を、身の回りをよく見る、しっかり見ていることが必要なわけです。心の窓を開けて、アンテナを立てておくこと。そうすれば、何かに気づくはずだ。気づけば、何かピピッと来るはずだ。…そういう「心構え」を説くのが、何だか取ってつけたような、これも今さらな話ですけれど、今年度のテーマ「インスピレーションになろう」だと考えてみたらどうかと思えます。そういう心構えでいれば、良い奉仕の材料はいくらでも見つかるはずだ…。（このテーマは分かりにくいという評判ですが、かなりレベルの高いテーマなわけです。）

もっとも、私のように井戸の中にいたのでは、例えば「水と衛生」や「母子の健康」といったものは、あまりピンと来ないのが正直なところ。この辺は、大海を泳いでこられたPGのお考えをぜひ伺いたいところですね。

…で、ようやく奉仕の本質という話に入ろうと思うのですが、丁度時間です。

…で、ようやく奉仕の本質という話に入ろうと思うのですが、丁度時間です。

少しだけ申し上げておきますと、「最もよく…」という言葉は、おそらく、原義としては、「(ガリガリ亡者のようにではなく) 奉仕の精神、サービス精神をもって商売するのが、結局は儲かる商売の正しいやり方であって、そうしてどんどん稼いで業務を拡大していけば、経済が成長・発展して、世界が豊かになって、つまりは世のため人のためになる」ということだったのではないかと思います(時代性です。右肩上がりの、世界が無敵だった時代…)。それこそがロータリー精神であるという考えも根強いと思います。しかし、私は、これを全く違った意味に捉えて、私が考える奉仕の本質を述べてみたい…なんぞと考えています(うまく行くかどうか分かりませんが)。

以上、「私の奉仕論」全3部の第2部を終わり、第3部「完結編」は、次回といたします。

幹事報告 井上 旭幹事

ロータリー関係受領書類
ガバナー事務所

2019-20 年度地区役員・委員会委員就任委嘱
通知

相模原中 RC

第 2000 回記念例会案内通知

グループ幹事

4 月会長幹事会開催案内

津久井 RC

例会変更通知

米山梅吉記念館

賛助会入会依頼

ゲスト紹介

大谷新一郎 様 相模原南 RC
中村 辰雄 様 相模原南 RC



卓 話

大谷新一郎パストガバナー

皆さん、こんにちは。今日は古巣へ帰ってきたような気がしております。まず、地区へ佐藤祐一郎さん、小山さんに出て頂きまして本当にありがとうございます。佐藤さんには研修委員会副委員長というかなり重責の仕事をして頂き、委員長の私は大変助かっております。

次年度は具さんに姉妹地区委員にご就任頂きました。また井上会長エレクトに今日お会いできましたが、ご病気になられたということでお大事にして頂きたいと思っております。そして池田さんには新会員の集いにご参加頂きましてありがとうございました。200 人を超える方々の参加があり、懇親を深められたのではないかと思います。

今日はガバナーをやって、自分が感じた事を 3 つ挙げさせて頂きます。まずは、誰でも言う事かもしれませんが、一年間ガバナーをやって素晴らしい仲間との出会いが多くあり、視野が広がりました。私はガバナーの一年間に名刺を 1000 枚配るという目標を持ち 1000 枚作りましたが、サンディエゴ国際大会のパーティーでもバンバン配るなど

900 枚を使いました。

同期ガバナーが 34 人いまして、ガバナーというのはどんな人達だろうと思いつつながら、私なりのイメージもありましたが、34 人みんな違いました。しかし共通しているのは、自分の地区をよくしようという意気に燃えていることでした。

2 番目は、「理論も大事だが、行動の実践が重要」ということです。ロータリーというのは常に「ロータリーとは」などと理論に走りがちですが、ガバナーとして 67 クラブ回ってみて感心、感激するのは、行動を伴う奉仕の実践を行っているクラブです。活気があるかどうかということに、人数が多い、少ないは全く関係ありません。停滞しているクラブに公式訪問で話をする時は、そのどんよりした雰囲気はどうやって打破するかが、ガバナーの仕事だと思いつつ、そのクラブの雰囲気を見て、67 クラブ全部違う卓話をしました。

3 番目に、「自分の無能さを知る」ということでした。私は狭い世の中で生きていて、井の中の蛙という言葉がありますが、そこを出ていくのは勇気がいりますよね。ガバナーをやったことにより、ロータリー以外の色々な分野の方々と知り合うことができ、それで自分の無能さを埋めてもらえたので、私はガバナーになって本当に良かったと思っています。

クラブからは是非ガバナーを輩出して頂きたいと思っております。クラブが一丸となって推して頂ければ、クラブの規模などは全く関係なく、ガバナーを輩出できます。津久井中央クラブ、頑張ってください。

今日はもう 1 つ、「リーダーに必要なもの」というお話をしたいと思います。新聞の切り抜きをお配りしましたが、そこに掲載されている歴史学者磯田道史さんの言葉ですが、「リーダーとは嫌われる決断ができる人」ということで、何か問題が起こったときに、皆から嫌われる決断ができる勇気と指導力を持たなければならない。それができるのは「変化を受け入れることができる人」と言っています。

滅びていった幾多の大名や指導者にみられる共通点は、変化を受け入れなかったこと。変化を受け入れながら世の中を渡って行かなければ、リーダーとして駄目だということです。「窮すれば変ず、変ずれば通ず」困ったら変わることに、変わるから道は開けると言っています。

もう 1 枚の記事に中満泉さんが掲載されています。この方はロータリー財団学友です。2780 地区の厚木ロータリークラブがホストで、留学させました。彼女は今、国連の日本人職員最高位の事務次長で、国連難民高等弁務官だった緒方貞子さんの上をいっています。

中満さんは難民キャンプに平気でいきます。内戦が続くソマリアの反政府勢力は、名前を聞く前に殺してしまうというような組織で、中満さんがソマリアのある村に行った時に、すぐ近くまで反

